

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL & FAX 558-0718

住民の利益をまもり、「住民こそ主人公」のあきる野市政実現をめざして!

2007.2.11 No.456 (毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は、次の見解を発表しました。



吉田万三さんとともに 都政を変えよう

石原都政はもういらない!
都民の税金は都民のために使え!

吉田万三さん勝利にむけて1月31日・羽村産業福祉センター 革新都政をつくる「西多摩の会」が発足

吉田万三さんこそ
庶民の心がわかる人
日本共産党市議会議員 影山 保



石原知事のマスコミに映る最近の顔は渋く、笑顔もどこかムリをして作っている感じが、共産党都議団の調査により、豪華海外視察と身内を使った都政の私物化、一晚で50万円も消える飲食接待など、税金の無駄遣いが明らかにされたからだ。
弱いものいじめと大企業奉仕に熱中し、知名度をたてにおごり高ぶっていたこれまでの虚像の仮面がはがれ、石原タプーが打ち破られたことは痛快だ。

地域・職場・政党・学園・個人で組織した革新都政をつくる「西多摩の会」は、すでに吉田万三さん勝利に向け、ヒラの配布や宣伝の活動が進められています。一月三十一日(水)に行った決起集会で、革新都政実現に向け全力の行動提起が確認されました。豪華海外旅行に見られる都政の私物化、オリンピックを含めた大型開発、憲法・教育基本法改悪推進などに石原都政はいらないと市民の怒りが噴出しています。

吉田万三さんに心から期待しています

石原都知事は、下品・下劣な言動をくり返し、特に女性蔑視の言動は許せません。「しんぶん赤旗」の記事で明らかにしたように、公私混同の税金のムダ遣いには、開いた口がふさがりません。まさに税金ドロポウです。福祉をパツサリ削り、憲法や教育基本法を無視して、日の丸・君が代を

元足立区長の吉田万三さん、よく立候補してくださいました。とてもうれしいです。03年10・23都教委通達で、都の公立学校の現場は窒息寸前の状態です。そこに、06年9・21東京地裁判決「国旗・国歌の強制は違憲・違法」の正しい判断に小躍りして喜びました。また「しんぶん赤旗」による石原知事の税金豪遊や身内起用と厚遇の暴露に胸のすく思いをしています。憲法を無視し、「福祉は最大のセイタク」と言い張る石原知事をやめさせ、吉田万三さんと都民が主人公の都政実現のため、みんなで力を合わせましょう。

引田・西川富美子
野辺・渡辺 照美

こんな人に都政を任していることは都民の不幸である。
吉田万三さんこそ庶民の心がわかる人、今度こそ都知事に押し上げたい人です。一緒にがんばりましょう。



インターネットのとある子育て掲示板を時々見ます。先日、最近服の裾をしゃぶりだした子についての相談がありました。生後半年の弟がいる2才さん。お母さんはやめさせたくてキリキリしていました。

指なめ歴のあるむすこに、理由がわかるか聞いてみました。「わかるよ。さみしいときにね、やるんだよ。その子のお母さんはわからないの? ふーん...こどもがわかるのにどうしておとながわからないんだろうね。」

ひとのきもちを理解したいなら我が身に引き寄せて考える。当たり前なことなのに、どうしてもこども相手となると忘れがちになるのでしょうか。むすこの言葉が胸にちくんとしました。

たばた あずみ
連絡先は ☎550-6674

なにげなく眺めていた「しんぶん赤旗」の紙面から、「エーフォリア」という言葉が目にとまった。一月八日付けの経済時評欄だ。論説委員の友寄さんの文章だ。たばたあずみ氏の陶酔的熱狂という経済学用語で、景気循環の繁栄局面の頂点で、資本のもうけが最高水準に達したときに、資本が陥る「夢幻境」の局面をさし、資本が自らの繁栄に目が眩んで、現実にも累積する矛盾は一切視野に入らなくなる状態をいい、すでに財界はこの状態に入っているのではないかと指摘している。▼庶民の側から見れば、大企業減税の一方で庶民増税、社会保障の限らない縮減、ワーキングプアにホワイトカラーエグゼンプションと理不尽な社会状況が次から次に押しつけられる耐え難い矛盾。これらを顧みる素振りも見せない、財界と政府自民党。▼この状態の資本は決して自ら目覚めることはありません。目覚めさせられるのは、労働者と国民の闘いしかありませんと結んでいた。(紀)



街頭署名も最後まで賑やかに行われました

「温泉問題を考える会」が行った「税金の使い方を正そう」という事務監査請求の署名運動は、1月9日以来29日間の運動を終わろうとしています。

この間、TV報道が多かったこともあって、急速に市民の関心が広がり法定必要数は勿論目標の三千筆も突破して、4千を大きく越える予想される程に署名が収集されています。

この中で、今後の運動に期待して多くの方から頑張れとの激励を受けているといえます。さらなる前進への期待が高まっています。

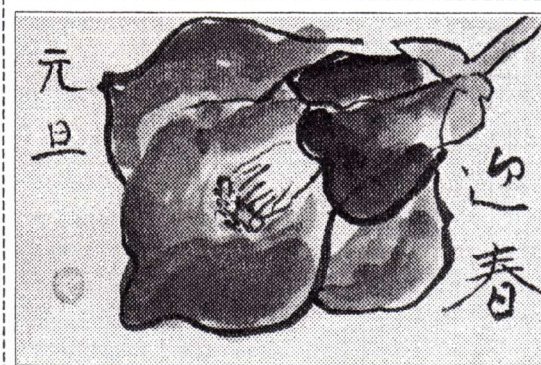
事務監査請求 署名運動に参加して

市議会が市の行政をチェックする機能がないのなら、住民一人一人が行政を監視する以外にないの思いで、1月11日より連日、平均2時間弱、署名運動に歩いている。1月31日現在312筆を収集した。

折立、草花、高瀬地区を一軒一軒訪問している。留守宅が多く効率的ではないが、市民の反応は総じて好意的である。在宅の世帯では多くの方が快く署名に応じてくれる。温泉施設建設賛成の声は皆無である。くらしや教育、福祉のさらなる後退を憂える声を多く聞いた。

二月六日の期限まで、全体の目標の三千筆を達成するために徹力をつくしたいと思う。

草花・田中 義夫



絵手紙/佐藤さん・雨間在住

広がった「税金の使い方を正そう」の声!

事務監査請求 署名数は三千八百越え(1月31日現在)最後まで勢い衰えず

あきる野の日本共産党支部・後援会便り

久しぶりの支部主催の演説会で充分手ごたえ



秋川南支部は1月27日、20名の参加で鳥居会場館で支部主催の演説会を開きました。

吉田万三都知事候補のビデオを見た後、都知事選については副支部長が、市政のこと、参院選のことは影山議員が話しました。後半は自由な懇談となり、「共産党以外に我々には頼り場がない。」との83歳の参加者の発言でもでした。

東地区後援会で12月議会報告会開く



1月27日、東地区後援会は12月議会報告会を行いました。山根とみえ議員が国保税値上げで、一般会計からの繰り入れを増やし値上げするなどの意見も聞かず、市長から値上げの諮問が出されたと報告。初参加の人から「年金は下げられ、税や保険料が上がるばかりでは生きてゆけない」などの声が出されました。後期高齢者医療制度も、新たな保険料徴収と一定診療回数制限による診療抑制は、国民の健康と生命に関わる悪政として、参院選での日本共産党の躍進を期待する声が多く出されました。

歴史探訪

第36回

多摩川の渡し ③

戦争の需要による多摩川砂利の採掘によって、木橋は積載トラックが通行できる堅固なものでしたが、戦争の激化と共に資材不足、応召による労働者不足を伴って、橋の幅員も一米以下の徒歩でしか通行できない、飯橋に縮小されます。

昭和二十四年に都による永田橋(木橋)架橋と同時に、「福生の渡し」の使命は終了しました。

◇牛浜(別名・森山)の渡し

五日市街道は、初期の江戸幕府にとって西方からの侵入を防ぐ番所(檜原)へ向かう道路、即ち軍用道路でした。後に江戸が大都市へ発展し、庶民の消費と五日市方面の生産地を結ぶ経済道路に変わってゆきます。五日市で生産した炭を江戸へ輸送するため、当時(享保一七一―一三五)の五日市街道は荷駄や商人で賑わい、特に二宮宿から牛浜までの多摩川越えは一大関心事であった。

現在見られるように、多摩橋付近は多摩川と平井川の合流点であり、二つの川を渡る困難さもさることながら、洪水によって氾濫した川原は幅一キロ米に及んだという記録もあって、当時の川越えの異常さが想像できます。(続く)

草花 木崎秀治



多摩橋(五日市街道)

俳句

年明けて古井戸の水新たなり (やすこ)

初富士に平和を願ひバスの旅 (富子)

四日はや義母は別れの涙かな (忠治)

打ちもせず今日て三日冬の蝶 (照代)

だるま市なじみの路店さがしゆく (静子)

冬晴の積雪空と地のあひだ (米里)

行き止まる風の道の辺冬すみれ (かほる)

今宵また寒折を聞き眠るかな (香治)

